

⑬ Int. Cl. 3

B 42 F 13/22

識別記号

庁内整理番号

7611-2C

⑭ 公開 平成4年(1992)7月3日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全2頁)

⑮ 考案の名称 ファイルホルダ

⑯ 実 願 平2-119939

⑰ 出 願 平2(1990)11月16日

⑱ 考 案 者 山 本 憲 埼玉県坂戸市西坂戸4-22-5

⑲ 出 願 人 野 口 完 二 東京都大田区池上7-16-4

⑲ 出 願 人 山 本 憲 埼玉県坂戸市西坂戸4-22-5

⑳ 代 理 人 弁理士 石 戸 元

㉑ 実用新案登録請求の範囲

- (1) 相互に固定される2本の連結棒1A、1Bと、これらの連結棒1A、1B間に、所望間隔において形成された嵌合溝2と、これらの嵌合溝2内に嵌装された開閉可能なリング3とよりなるファイルホルダ。
- (2) 嵌合溝2は一方の連結棒1Aに形成されていることを特徴とする請求項第1項記載のファイルホルダ。
- (3) 嵌合溝2とリング3の断面形状が円形である請求項第1項、第2項のいずれかに記載のファ

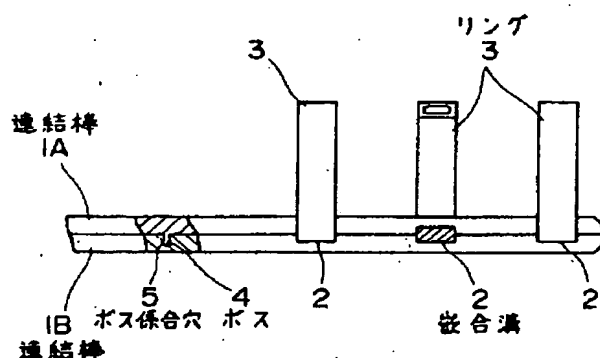
イルホルダ。

図面の簡単な説明

第1図は本考案ファイルホルダの第1実施例の構成を一部断面で示した要部の側面図、第2図は第2実施例の構成を一部断面で示した要部の側面図、第3図は第3実施例の構成を一部断面で示した要部の側面図、第4図は本考案におけるリング説明図である。

1A、1B……連結棒、2……嵌合溝、3……リング。

オ 1 図



オ 2 図

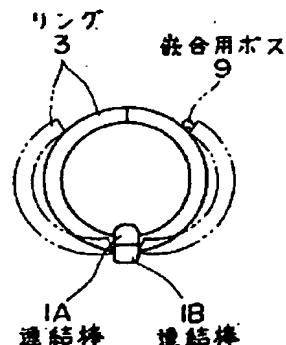


図 3

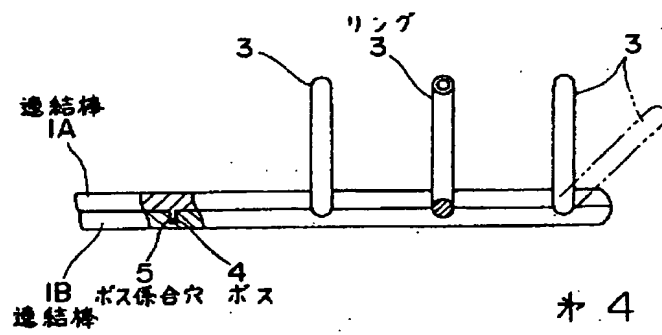
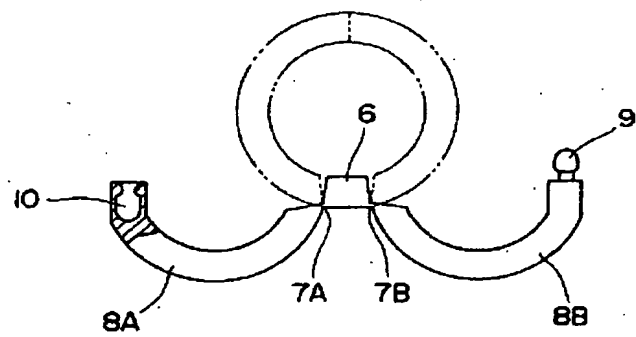


図 4



# 公開実用平成 4-76486

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-76486

⑬ Int.Cl.<sup>9</sup>  
B 42 F 13/22

識別記号 庁内整理番号  
7611-2C

⑭ 公開 平成4年(1992)7月3日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ファイルホルダ

⑯ 実 願 平2-119939

⑰ 出 願 平2(1990)11月16日

⑱ 考 案 者	山 本	憲	埼玉県坂戸市西坂戸4-22-5
⑲ 出 願 人	野 口	完 二	東京都大田区池上7-16-4
⑲ 出 願 人	山 本	憲	埼玉県坂戸市西坂戸4-22-5
⑳ 代 理 人	弁理士 石 戸	元	

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

ファイルホルダ

### 2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 相互に固定される 2 本の連結棒 (1A・1B) と、これらの連結棒 (1A・1B) 間に、所望間隔をおいて形成された嵌合溝(2)と、これらの嵌合溝(2)内に嵌装された開閉可能なリング(3)とよりなるファイルホルダ。
- (2) 嵌合溝(2)は一方の連結棒(1A)に形成されていることを特徴とする請求項第 1 項記載のファイルホルダ。
- (3) 嵌合溝(2)とリング(3)の断面形状が円形である請求項第 1 項、第 2 項のいずれかに記載のファイルホルダ。

### 3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は紙、フィルム等をファイルするファイルホルダに関する。

〔従来技術とその課題〕

近代社会の情報化が進み、様々なデータ記載紙、広告紙、メモ用紙、筆記用紙、その他の紙あるいはフィルム等をファイルするものが増大しているが、従来のバインダやファイルホルダはそのリングの内径、間隔（ピッチ）及び長さが決まっているので、用途や目的が多様化している現在、各用途、目的に応じたファイルホルダを数多く作成しておく必要があるばかりでなく、従来のファイルホルダは連結部分とリングが一体成形されているので、大きな在庫スペースを必要とし、かつその管理が容易ではなく、高価になるという課題がある。

〔課題を解決するための手段〕

本考案ファイルホルダは上記の課題を解決するため、図示のように相互に固定される2本の連結棒1A・1Bと、これらの連結棒1A・1B間に、所望間隔をおいて形成された嵌合溝2と、これらの嵌合溝2内に嵌装された開閉可能なリング3とよりなる構成としたものである。

〔作用〕

本考案ファイルホルダは、このような構成とすることにより 2 本の連結棒 1A・1B とリング 3 を別々に金型を用いて成形し、組み立てることになるので、連結棒 1A・1B 間に形成される嵌合溝 2 の間隔及び連結棒 1A・1B の長さが用途や目的に応じて異なる連結棒 1A・1B を多く作成しておくか、または嵌合溝 2 の間隔が用途や目的に応じて異なる長尺の連結棒 1A・1B を多く作成しておき、これを用途や目的に応じて所望の長さに切断することにより、希望する嵌合溝 2 の間隔と長さを有する連結棒 1A・1B を得ることができることになり、かつリング 3 も内径の異なるものを多く作成しておくことができるため、多種多様のファイルホルダを提供することができることになる。

#### 〔実施例〕

以下図面に基づいて本考案の実施例を説明する。

第 1 図は本考案ファイルホルダの第 1 実施例の構成を一部断面で示した要部の側面図で、1A・1B は相互にボス 4 とボス係合穴 5 の係着により固定された 2 本の連結棒である。これらの連結棒 1A・

1Bの固定はボス4とボス係合穴5の係着により行うだけに限らず、ピン、ネジ類、接着等の手段により行えばよい。2はこれらの連結棒1A・1B間に所望間隔をおいて形成された嵌合溝であり、この第1実施例では断面が角形になっている。3はこれらの嵌合溝2内に嵌装された開閉可能なリングである。

このリング3は例えば第4図示のように基部6と、この基部6の両側にヒンジ7A・7Bを介して連結されたリング部材8A・8Bとよりなり、これらのリング部材8A・8Bの先端にはそれぞれ係脱可能に開閉できるボス穴10とボス9とが形成されている。

第2図は第2実施例の構成を一部断面で示した要部の側面図で、この第2実施例は第1図の第1実施例において一方の連結棒1Aにのみ嵌合溝2を形成した例であり、この場合は他方の連結棒1Bが嵌合溝2の間隔に無関係であるので、嵌合溝2の間隔が用途、目的に応じて異なっても他方の連結棒1Bを共通に利用できるという特長がある。

第3図は第3実施例の構成を一部断面で示した

要部の側面図で、この第3実施例は、第1図の第1実施例において嵌合溝2とリング3を円形にした例であり、この場合は仮想線で示すようにリング3を傾倒することができ、在庫スペースの削減に寄与することができる。

上記第1図～第3図の第1実施例～第3実施例において紙等をファイルするときは、従来のものと同様にリング部材8A・8Bの係合を外してリング3を第4図の実線で示すように開き、ファイル後に第4図の仮想線で示すように両者を係合して閉じることになり、また、紙等をリング3から外すときは逆の過程を経て紙等を外すことができる。

第1実施例～第3実施例はいずれも相互に固定される2本の連結棒1A・1Bと、これらの連結棒1A・1B間に、所望間隔をおいて形成された嵌合溝2と、これらの嵌合溝2内に嵌装された開閉可能なリング3とよりなるので、2本の連結棒1A・1Bとリング3を別々に金型を用いて成形し、組み立てることになるので、連結棒1A・1B間に形成される嵌合溝2の間隔及び連結棒1A・1Bの長さが用途や



目的に応じて異なる連結棒 1A・1B を多く作成しておくか、または嵌合溝 2 の間隔が用途や目的に応じて異なる長尺の連結棒 1A・1B を多く作成しておき、これを用途や目的に応じて所望の長さに切断することにより、希望する嵌合溝 2 の間隔と長さを有する連結棒 1A・1B を得ることができることになり、かつリング 3 も内径の異なるものを多く作成しておくことができるため、多種多様のファイルホルダを提供することができることになる。

また、2 本の連結棒 1A・1B とリング 3 は別々であるため、かさばらず在庫スペースの削減を図り、部品管理も容易になることになる。また部品管理が容易になると共に 2 本の連結棒 1A・1B とリング 3 を別々に成形することにより金型により多数個取りが可能となること、組立を自動化することが可能になること等により組立によるコストアップが軽微に抑えられることになる。

〔考案の効果〕

上述のように本考案によれば、相互に固定される 2 本の連結棒 1A・1B と、これらの連結棒 1A・1B

間に、所望間隔をおいて形成された嵌合溝 2 と、これらの嵌合溝 2 内に嵌装された開閉可能なリング 3 とよりなるので、希望する嵌合溝 2 の間隔と長さを有する 2 本の連結棒 1A・1B と、希望する内径のリング 3 を選んで組合せ組み立てることにより多種多様のファイルホルダを容易に提供することができ、しかも 2 本の連結棒 1A・1B とリング 3 は別々であるため、かさばらず在庫スペースの削減を図り、部品管理も容易になる。また部品管理が容易になると共に 2 本の連結棒 1A・1B とリング 3 を別々に成形することにより金型により多数個取りが可能となること、組立を自動化することが可能になること等により組立によるコストアップを軽微にできる等の効果を奏する。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案ファイルホルダの第 1 実施例の構成を一部断面で示した要部の側面図、第 2 図は第 2 実施例の構成を一部断面で示した要部の側面図、第 3 図は第 3 実施例の構成を一部断面で示した要部の側面図、第 4 図は本考案におけるリング

の説明図である。

1A・1B……連結棒、2……嵌合溝、3……リング。

代理人弁理士 石 戸

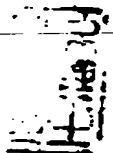


図 1

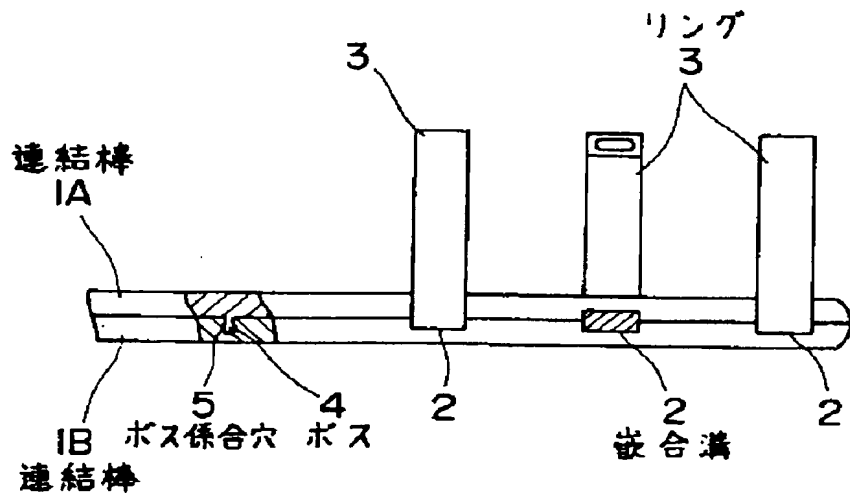


図 2

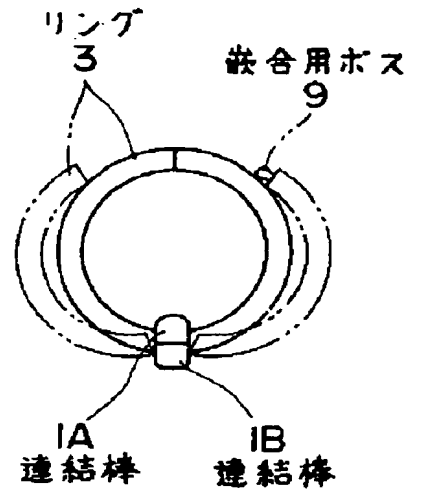


図 3

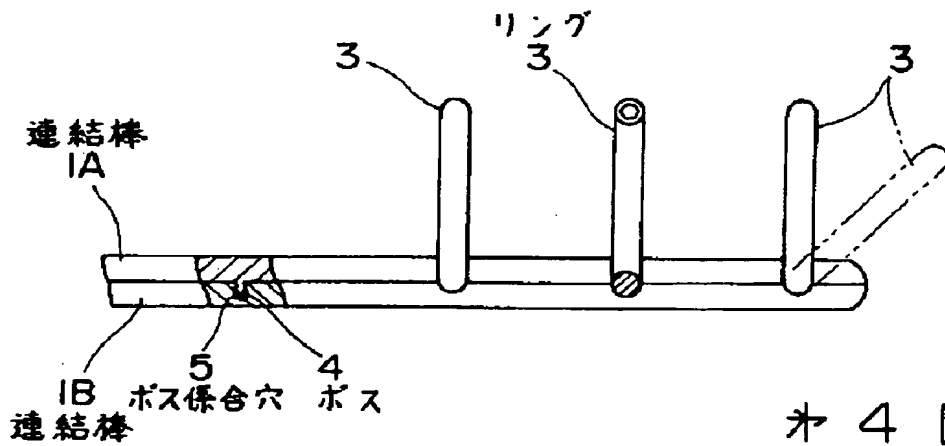
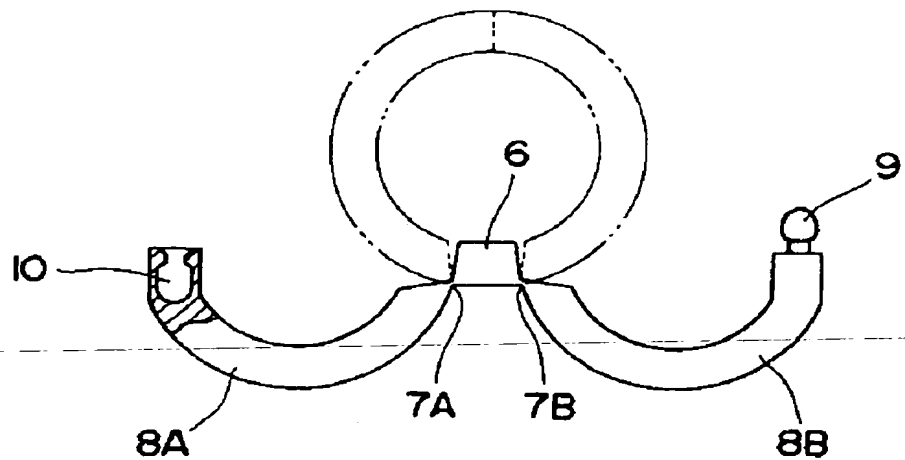


図 4



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☒ **BLACK BORDERS**

☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

☒ **FADED TEXT OR DRAWING**

☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**

☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**

☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**